

2021年度大学院博士前期課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
経済学研究科 経済学専攻	マクロ経済学

問題Ⅰ．初期の経済が以下の方程式で表されるものとする。

$$C = 250 + 0.75Y$$

$$I = 500 - 50r$$

$$M/P = Y - 200r$$

$$G = 1000$$

$$M = 6000$$

$$P = 2$$

なお、 Y は総生産（所得水準）、 C は消費、 G は政府購入、 I は投資、 r は利子率（パーセント）、 M は貨幣量、 P は価格とする。以下の問いに答えなさい。

- (1) IS曲線とLM曲線を導出しなさい。
- (2) 均衡利子率と均衡所得水準を求めなさい。
- (3) 初期の経済から政府購入を200単位、増加させたとする。貨幣供給は一定に維持されると仮定し、新しい均衡利子率と均衡所得水準を求めなさい。また、政府購入乗数を求めなさい。
- (4) 初期の経済から政府購入を200単位、増加させたとする。今回は中央銀行が利子率を問(2)で求めた均衡利子率と同じ水準で保たれるように貨幣量を調整すると仮定する。このとき、新しい均衡利子率と均衡所得水準を求めなさい。また、政府購入乗数を求めなさい。
- (5) 問(3)と問(4)で政府購入乗数が異なる理由を「クラウディング・アウト」の意味に触れながら述べなさい。

問題Ⅱ．総需要・総供給分析に関する以下の問いに答えなさい。

- (1) 総需要・総供給モデルの枠組みについて説明しなさい。
- (2) 2013年に示されたアベノミクスの3本の矢の経済効果それぞれについて、総需要・総供給モデルに基づいて、図解も入れて説明しなさい。